

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792700025		
法人名	医療法人福寿会		
事業所名	グループホームクローバー		
所在地	沖縄県中頭郡西原町字翁長591番地 前田産業ビル2階		
自己評価作成日	令和7年10月14日	評価結果市町村受理日	令和8年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail/022_kani=true&JigyosyoCd=4792700025-00&ServiceCd=320&Iype=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和7年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームクローバーでは、入居者様の一人一人の尊厳を大切に、意向要望などを確認しながら自分らしく生活が出来るようにホームの理念に沿った支援を心がけております。「愛」不安やイライラを与えないような言葉かけ。入居者様の想いを尊重した介護をします。「誠実」入居者様の事故防止や健康を守る介護を目指します。「希望」話しの傾聴や日々のレク活動、外出支援を通して入居者様に寄り添い、生活に生きがいを持ってもらえるよう支援します。「幸せ」家族との面会や入居者様同士など人との繋がりを持ってもらい、絆を大切にする生活支援をします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念である四つ葉のクローバー(愛、誠実、希望、幸せ)を軸に、利用者が自分らしく、安全に暮らせるよう支援を工夫している。理念は、不安を与えない穏やかな言葉かけ、事故防止や健康管理の徹底、そして外出支援を通じた生きがいの創出といった具体的なケアに反映されている。立地環境を積極的に活用し、4階建てビルの1階にある保育園の園児たちと日常的に交流の場を設けている点は、地域に開かれた事業所像を示す。また、保育園のテラスをお茶の時間に利用し、利用者が自然に親しみ穏やかに過ごせる環境を作っている。職員間のチームワークが良く、日々の情報共有や意見交換がサービスの質向上に繋がっている。安全面では、災害に備えた7日分以上の備蓄を確保している。また、利用者の安心に繋がるよう、施設特有の匂いがしないよう清潔を保つ工夫があり、床には衝撃吸収フローリングを採用するなど、利用者の安全と快適性への配慮が隅々まで行き届いている。これらの取り組みから、利用者の尊厳と地域との繋がりを大切にする、細やかな配慮が光る事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まったりし、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員への理念の意識づけとして、朝の申し送り後に唱和を行っています。また職員ミーティングを通して理念の具体的な意味とケアを考え、共有し実践できるようにしています。	四つ葉のクローバーの法人理念を事業所理念とし、玄関に掲示し利用者・家族との共有に努めている。管理者は毎朝のミーティングで理念の唱和を継続し、職員の意識づけを図っている。また、職員ミーティングを通じて、理念を具体的なケアへと落とし込み実践している状況が伺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度、入居者様の地元の自治会へ訪問したり、地元自治会の夏祭りへ参加見学したりと、入居者様と地域が繋がりが続けられるよう支援行っています。	利用者が地域とつながりながら暮らし続けるため、地域の一員として継続的に交流を試みている。今年度は、入居者の出身区の自治会へ訪問したり、夏祭りへ参加・見学したりするなどの支援を実施した。また、運営推進会議での意見を受け、マンションの上階にある立地を考慮し、総合訓練への参加や地域情報の収集にも積極的に努め、交流の機会を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	西原町の介護の日のイベントなどで、事業所紹介パネルの展示やパンフレットを配布など行っています。事業所見学など問い合わせにも随時受け付け対応し、グループホームの説明やサービスの浸透に努めております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて活動報告を関係機関やご家族様へ行いながら、意見や要望など確認しております。運営推進会議の出席状況によっては全ての委員の方の意見を確認する事が出来ない状況があります。	運営推進会議は、利用者代表、家族代表、行政などの構成委員が毎回参加し年6回開催されている。活動報告を通じて地域の意見や要望を具体的に聴取する場である。会議での意見を活かし、自治会のお茶会への参加を実現するなどサービス向上に繋げている。利用者や家族の近況が共有され、喜ばれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市町村担当者の方も参加していただき、会議の場で意見交換、課題解決等の協力を頂いております。また町主催の地域ケア会議に参加し、当事業所の取組紹介を通じて、助言等を頂いております。	市町村担当者とは運営推進会議への参加を通じて日頃から協力関係を築いている。年1回開催される町主催の地域ケア会議へ参加し、事業所報告を行うことで、ケアの取り組みについて助言を受けている。行政担当者とは顔なじみであり、緊急性の低い情報はメールで、必要な情報は電話で密に情報交換を行う体制が構築されており、事業所の実情を積極的に伝えられている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束防止委員会を設置し、研修やマニュアル等を通して身体拘束の内容を正しく理解し、適切な支援が出来るように努めております。今年度より運営推進会議メンバーに第三者として協力を頂き、定期的な報告を行っています。	管理者及び職員は身体拘束等の指針を理解し、マニュアルを整備している。指針では運営推進会議の委員を防止委員会の構成メンバーとして定めている。委員会は3ヶ月に1回開催し研修や情報共有に努めているが、今後は指針に沿った委員の積極的な参画を通じて、外部の視点を取り入れた適切な支援の徹底を期待したい。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	法人内の虐待防止委員会にて研修に参加し、虐待防止に努めております。虐待防止の推進として委員会メンバーに事業所職員も配置。今年度より運営推進会議メンバーに第三者として協力を頂き、定期的な報告を行っています。	高齢者虐待防止のための指針とマニュアルを整備している。6月に研修会を実施し、12月に研修を予定している。また、不適切ケア防止の勉強会も定期的に関き、欠席者には資料提供と報告書の提出を求めることで全職員への周知徹底を図っている。今後は指針に沿った運営推進会議委員の参画を通じて、外部の視点を取り入れた適切な支援の徹底を期待したい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で権利擁護、成年後見人制度に関して研修および学ぶ調整が出来ておりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前に約款、重要事項など説明行っております。改定、面会、カンファレンス時に随時、説明確認などで対応しております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族様、入居者様に参加してもらい、またEVホールにも意見箱を設置し、意見や要望など確認する機会を作っております。家族様、入居者様より受けた意見や要望などは申し送りを通して、職員間で情報共有。運営に反映させております。	EVホールに意見箱を設置し、利用者や家族が意見や要望を伝える機会を設けている。また、月に1回は家族へ連絡を取り、想いを汲み取るよう努めている。家族より電話よりもメールでのやり取りを希望する意見があり、それ以降メールを積極的に活用している。外出したいという要望を受けておやつ購入などを一緒に行うなど、意見を具体的な支援に反映させている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員ミーティングを通して、職員の意見や提案を聞く機会を設けております。ミーティングにて出た意見は議事録に残し情報共有。業務改善や支援に繋げております。職員意見は必要時には毎月1回行われている法人の運営会議にて代表者へ報告確認行っています。	定期的な職員ミーティングを通じて、職員の意見や提案を確認し、出た意見は業務改善や支援に繋げ、必要時には毎月の法人運営会議で代表者へ報告確認を行っている。職員の提案により、各居室に温湿度計を設置するなど、意見を具体的に運営に反映させている。また、緊急時の情報共有のため職員グループLINEも活用し、法人と連携して運営改善に努めている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のストレス、体調面など確認行いながら業務調整、休暇など取り入れやすい環境に努め、休日希望など取り入れながら勤務体制を整えております。また法人としても毎年1回個人面談を行い、職員の意見や希望を聞く機会を設けております。	職員が向上心を持って働けるよう、職場環境の整備に努めている。休日希望を取り入れた勤務体制とし、計画的な有給休暇の取得を促している。また、ハラスメント防止規定を設け、職員の健康管理のため健康診断を年2回実施している。法人本部による年1回の個人面談や産業カウンセラーによる相談窓口もあり、職員がストレスを溜めない環境の整備に配慮している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修や勉強会をする機会を設けております。また法人外でも介護実務者研修や認知症実践者研修を受ける機会を設けたりしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会へ加入し、研修や勉強会などへ参加。サービスの質向上へ向け取り組んでいます。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前調査や面談、入居後の日々の会話や支援を通して、入居者様の意向および気持ちを確認し、新しい環境での生活に親しんでもらいながら、その人らしい生活が過ごせるように努めております。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階でグループホームの役割など説明行いながら、ご家族様が困っていること不安なこと、要望など確認行いながら本人様、ご家族様にあったサービスが提供できるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初の段階で電話、見学など本人様やご家族様が何を求めて相談しているかを確認し、他のサービス利用も含めた支援に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はあくまでも出来ない生活部分を支援する立場で、生活の中で職員と入居者様一緒に食器洗いをしたり、洗濯物たたみをしたり、入居者様の尊厳を保持しながら、さりげない寄り添いを心がけています。日によっては上手く出来ない日や時間帯もあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の生活状況など毎月1回支援経過報告行い、面会やカンファレンス時にも報告確認行っております。状態の変化などあれば随時、連絡を取り合いながら支えていく関係を築いております。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人との面会の機会を増やしたり、ご本人様の地元の公民館や馴染みの場所に行くなどして支援を行っています。	利用者が大切にしてきた関係が途切れないよう、生活歴を把握し、支援に努めている。利用者や家族、友人の面会の機会を増やしているほか、馴染みの理髪店へ通い続けられるよう支援している。また、編み物をする利用者のために地域の店へ材料を買いに行ったり、おやつを近隣スーパーで購入したりするなど、地域との関係継続を積極的に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で入居者様同士、手工芸や生活リハビリ、軽体操やレク活動を通して談笑できる関わり合いと楽しい雰囲気作りとを心がけております。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退去後の相談、方向性など家族、MSWと連絡確認しながら共に検討しております。何かあれば随時、確認していき支援に努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中、関わりの中で言動や行動を観察行いながら記録に残し、職員間での検討を重ねています。意向の把握が難しい方は、ご家族様から入居前の状況を確認したり、職員間で入居者様本位のケアを検討したりしています。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望を把握するため、日々の言動や行動を観察している。短期目標は2~3ヶ月、長期目標は半年に一度見直しを行い、状態変化はその都度チームで共有している。意向を伝えにくい利用者には、質問を工夫し、表情やうなずき等の情報から意向を把握するよう努め、現場の職員からケアマネジャーへ、状態変化の報告も都度実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居受付時や日々のアセスメントなど確認行いながら一人ひとりの状態を把握するよう努めております。また職員間で、新規受け入れ時に生活歴やこれまでのサービス利用状況など申し送りや書面確認し、入居者様のこれまでの生活状況の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わり、ケアを通して入居者様の言動や行動、健康観察を行い、記録と職員間での情報共有をする事で現状の把握に努めております。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスやモニタリングを行い、本人様、家族様、ケアマネ、管理者にてホーム内での生活状況、プランの意向要望などを確認し作成しております。記録を通して職員間で介護計画を振り返り、出来る限りプランに沿った支援が出来るよう努めております。	定期的なカンファレンスやモニタリングを通じて、ケアマネジャーが介護計画書を作成している。日々の変化を把握している現場職員から計画変更の提案もあり、職員全体がプラン見直しに積極的である。夕方の申し送りを活用して情報共有を行い、計画に沿った支援が実施されている。ケアマネジャーが現場から情報収集を行うなど、チームでの連携に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録にその日の様子や状況、気づき等を記録し、情報共有しながらケアに努めています。介護計画の見直しに関しては、まだ上手く活かしきれていない部分もあります。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の希望、状況について家族様の希望も確認し柔軟な対応を心掛けています。外出、病院受診等に関しては出来る限り要望に沿った対応をしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の中で、福祉課、民生委員、包括支援センターの方々に参加してもらい、情報の確認など行っておりますが、現状地域支援との協働を行えていない状況があります。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に入居者様の主治医と訪問診療などを通じて、連携および情報共有に努めております。また他病院の主治医、薬局に関しても入居者様、家族様、管理者にて一緒に受診し指示確認を行っております。	入居前のかかりつけ医や受診歴、現在の医療ニーズを把握し、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。現在、1名は馴染みのかかりつけ医による診療を継続し、8名は本人・家族の希望により協力医療機関の訪問診療を利用している。主治医へは面談や文書を通して情報共有を図っており、状態変化時には報告・相談できる体制を整えている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を配置し、また法人の老健施設の看護師長とも連携を取っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院などした場合は病院の担当MSWと連携しながら状態確認および退院時の調整を行っております。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居されている方の中で重度化、終末期に関して対象者はいませんが、看取りに関して対象者が出てきた場合は本人様、家族様、主治医と連携確認を行いながら調整していきます。	重度化や終末期に向けた方針については、入居時に利用者・家族へ文書で説明し、意向を確認したうえで同意を得ている。今年度は1名の利用者に対して看取り支援を行い、家族および医療機関と連携を図りながら、最期まで安心して過ごせる支援体制を確保している。法人と協同で「看取り委員会」を開催し、定期的な研修を実施しており、支援の充実と体制の強化に努めている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変及び事故発生時に備えて職員間で初期対応などの確認及びマニュアルを確認し対応できるようにしております。	急変や事故発生時に備えマニュアルを整備し、年2回、救命処置の訓練および研修を実施している。事業所内にはAEDの設置がある。事業所配置の看護師や主治医と連携し、24時間連絡できる体制を確保している。事故発生時は、主治医、看護師へ報告した後、職員間で原因および再発防止策を検討し報告書を作成し、全職員への周知を図っている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、 自然災害発生時や感染症発生時の業務継続計画を策定し、研修や訓練を定期的実施している。 感染症の予防及びまん延防止のために委員会の開催や指針の整備を行ない、研修及び訓練を定期的実施している。	定期的に火災訓練、設備点検(業者)を行い、緊急通報システムにて応援体制など整備を行っております。自家発電機、食材備蓄、感染防護具備蓄など整え、防災と感染症に関するBCPマニュアル整備しております。	年2回、昼夜を想定した災害訓練を実施している。食料品・衛生用品は利用者・職員分として7日分を備蓄し、自家発電機も整備している。感染症・災害に備えた業務継続計画(BCP)を策定し、研修・訓練・見直しを定期的に行っている。また、感染症対策の指針とマニュアルを整備し、毎月、感染症委員会を開催して全職員へ周知している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの尊厳を大事に声掛けを行い、不快な思いをすることなく、日々の生活が過ごせるよう心がけております。	つねに利用者に敬意を払い、尊厳が保たれるよう丁寧な対応を心がけている。利用者との関係が深まるにつれて、言葉使いや態度が馴れ馴れしくなりすぎないように、職員同士でチェックしている。プライバシー保護や接遇に関する研修を継続しており、意識向上に努めている。個人情報の取扱いについては、入居時に方針や利用目的を文書で説明し同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の関わりの中で、声掛け説明しながら本人様の反応、表情、言動など確認しながら支援しており、入浴時の衣類選択や活動参加の意思などを状況を説明しながら、本人様の希望表出、自己決定できるよう支援に努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の日々の生活リズムを確認行いながら希望に沿って支援しています。希望あっても対応できない場合は説明調整行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の生活の中で職員側も意識しながら整容、着替え、訪問美容など利用しながら支援しております。おしゃれや細かい部分に関してはまだ出ていない所があります。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては、朝食のみ事業所内で献立、調理を行い、昼・夕は法人より食事提供を受けております。片付けなど協力してくれる入居者様が一名おり、たまにですが職員と一緒に食器の片付けや食器洗いを行っております。また週に一度職員と入居者様が一緒に食事を摂り、食事を楽しむことが出来るよう取り組んでいます。	朝食は職員で調理し提供している。昼食と夕食は、ご飯と汁物を事業所で調理し、副食は法人の配食を利用している。月1回、利用者と職員が共に昼食を味わっている。後片付けや食器洗いは、利用者と職員が一緒に行っている。食事を楽しむためのイベントとして、定期的に「くわっちーデイ」を開催し、利用者の要望や好みを反映した特別なメニューを提供している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事摂取量、嗜好、水分など確認、記録を行いながら状態によっては主治医へ報告確認行っております。法人の管理栄養士にメニュー確認してもらいながらアドバイスを頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に職員にて声掛けを行い、出来ない入居者様に対しては介助にてブラッシングやガーゼにて口腔ケアを実施しております。定期的にコップ、歯ブラシなどの洗浄行っています。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様の排泄を記録しながら一人ひとりの排泄状況を把握し、随時または定時のトイレ案内を行い、出来ない部分に関しては介助対応しております。	利用者一人ひとりの身体機能や能力を把握し、可能な限りトイレでの排泄に努めている。排泄の自立と身体機能の維持が両立できるよう、生活リハビリに力を入れている。排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、オムツの使用や失敗を減らす見直しを常時行っている。3か月ごとに法人全体で「排泄ケア委員会」を開催し、ケアの見直しや改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の入居者様に対しては主治医と相談確認しながら内服薬の調整および食事摂取量の確認、水分摂取の促し行っております。また入居者様に合わせて、牛乳やヨーグルトなどを摂ってもらったり、歩行運動を取り入れるなど随時対応行っております。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日ごとに入浴の予定を組んでいますが、入居者様の意向によって拒否される場合もあります。曜日や時間の変更、同性職員での対応など入居者様の意向を確認しながら調整しております。入浴が楽しめるよう音楽かけたり、アロマを置いたり、かけ湯などの対応をしています。	入浴は週2回が基本で、利用者の体調や希望に応じ、柔軟に予定を変更し対応している。同性介助を基本としているが、難しい場合は利用者の承諾を得たうえで対応している。浴室には浴槽があり、湯船に浸かることもできる。入浴時には、音楽をかけたり、アロマを置いたり、入浴剤を使用したり、利用者一人ひとりが入浴を楽しみリラックスできる支援を心がけている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状況および生活リズムなど考慮して安心して休んでもらえるよう支援行っております。空調管理などは職員の方で管理対応行っております。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援マニュアルを整備。主治医からの指示を確認しながら、看護師にて名前と内服時間区別し、内服時には職員のダブルチェックを行い、薬をしっかり内服できたか、内服忘れがないかを徹底してチェックしております。	服薬管理マニュアルや薬事情報のファイルは、いつでも職員が閲覧できるよう事務所内に設置している。処方薬は、看護師が専用のバインダーに1週間分セットし、遅番と夜勤職員2名で翌日分をチェックし専用のケースにセットしている。与薬前、与薬後も職員2名でチェックを行い誤薬防止に努めているが、直近1か月以内に1件、誤薬事故が発生している。	服薬管理の方法や服薬手順の見直しなどを検討し、誤薬防止に向けた取り組みの強化を期待したい。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で声掛けを行いながら生活歴や出来る役割を確認し支援行っております。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援として、ドライブ、1階テラスや施設周辺の散歩などを職員体制みながら行っております。今年度は地域交流もかねて、入居者様の地域の公民館訪問や地元自治会の祭りへ見学へ行くなど支援しております。	利用者のその日の希望に合わせて、近隣の散歩や行きつけの売店、スーパーへ買い物に出かけている。天気の良い日には、1階のテラスで外気浴や喫茶の時間を設けている。定期的な外出行事を企画し、利用者全員で初詣やドライブなどを楽しんでいる。また、利用者の地域の公民館訪問や、自治会のイベントに参加する支援も継続して実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の金銭管理に関しては本人様、家族様の意向確認の上、対応支援行っております。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様、家族様からの電話、手紙のやり取りに関しては随時、対応支援行っております。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に関しては常に清潔に保つ意識を持ち、リビング内では季節を感じ取れるように飾りつけなども行っております。	共有空間は季節に合わせた飾りつけを行い、つねに清潔さが保たれている。リビングには眺望の良い大きな窓があり、利用者の好みに応じた民謡や歌謡曲を流すことで、明るく親しみやすい雰囲気づくりに努めている。共用トイレ2か所は臭気対策を徹底し、快適に使用できる環境を整備している。床には衝撃吸収性の高いフローリングを採用し、安全面にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内でソファ、椅子、テーブルなど配置を行いながら、一人または他入居者様と過ごせる環境を整えております。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内ではベッド、タンス、冷暖房など設置を行っております。入居者様によってはラジオや家族写真を持ち込まれたり居心地よく過ごせる環境づくりを心がけています。	居室には、ベッド・タンス・エアコンが備え付けられている。写真や生け花が飾られている居室や、テレビやラジオ、小型冷蔵庫などの家電製品が持ち込まれてる居室があり、家族の協力を得ながら利用者が安らげる空間作りに努めている。オムツは化粧箱に収納しプライバシーに配慮している。消臭対策や衛生面にも気を配り、快適な生活環境を整備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで安全な環境を整えております。車イス、歩行器使用の入居者様でも自力操作が可能で自立した生活が過ごせるよう環境づくりを行っております。		